

地域活性化 京都府福知山市 「みわ・ダッシュ村」から という「遊び」 84 山本晋也

筆者プロフィール

1968年、京都生まれ。美術大学を卒業して渡米後、京都で現代美術作家として活動しながらオーガニックレストランを経営。食材調達のため畑も始める。結婚して3人の子供を授かったころ、農業生産法人みわ・ダッシュ村の清水三雄と出会い、福知山市の限界集落に移住。廃屋を修繕しながら家族で自給自足を目指す。現在みわ・ダッシュ村副村長。

正月飾りも全て自分たちで作って迎えた新年
小正月には三和集落でも「どんど焼き」が行なわれた
当日焼いて食べるはずの、神社にお供えした鏡餅12個が
今年はずか2個まで減ってしまい……

恒例どんど焼き ご褒美をいただいて

初詣り人気の神社は賑わいを取すが
我が家は

お雑煮食べたらずら歩いて5分地元の
小さな神社に初詣
というお決まりの元旦。
自分たちで育てた米で餅をつき
その稲藁を使ってしめ縄を編み
飾りにつかう榊や南天、松、竹は
そこらの山で調達したもの。



神社にお供えして2個だけ残ったお餅をどんど焼きの熾火で焼く。

飾り付けは有名な神社のように豪華ではありませんが
全て地元の本物という意味ではある意味贅沢かもしれません。
そんな贅沢？なお飾り
各家庭のお飾りや書き初めも集め毎年14日一斉に
神社近くの道路脇で燃やします。
いわゆる「どんど焼き」ですね。
地方によって「どんどん焼き」とも言うそうですが
僕たちの場合
集落のじいちゃんばあちゃんそれぞれバラバラの名前で言うので

大切なのは中身だから
名前のことはもうなんでもよいか
となってます(笑)。
雨の多い福知山
小雨や雪の時にも
燃やさないといけないので
火力増強のため
一緒に薪など燃やしますが
ある程度燃えたと
熾火おきびができます。
その熾火がいい感じになった頃
年末からお供えさせていただいた
鏡餅を炙って
食べるのがならわしなんです
これが子供たちの焚き火に次いで
のお楽しみ。

集落にある神社は本殿の他に
不動さん、行者さん、大川
さんなどの小宮さんが5社ありま
すので
全部合わせると
6個のお鏡さんが下がってきて
それぞれ2段積みなので
お餅の数としては12個となって
総勢6人という集落一の大家族の
我が家をいれても
一人あたり1個はかならず
食べられる計算になります。
しかし近年
下がってくるお鏡さんが極端に少
なくなるようになりました。



こちらは子たちが
まだ小さかった
2016年。
のどかですね。



昨年は大雪で
中止しようかとなりましたが
その時もおばあちゃんの
「だんないだんない」で
強行開催（笑）。



お飾り作り。上手なおじいちゃんが亡くなられたので
今年から全て子たちが作ってくれています。

原因は狸やカラスだと思えます。

年末から2週間も

置いておく訳ですから

仕方ないといえ

仕方ないのですが

昨年は半分くらい無くなるなど

さすがに酷くなって来たので

今年から元旦だけお供えして

お参り終えたらすぐ下げさせて

いただこうかと考えていました。

昨年末子たちに

意見を出してもらったところ

人間の都合で数時間だけ

お供えするのも味気ないし

餌の少なくなる冬場

動物たちもたいへんだろうから

食べられてしまったとしても

神様が食べたんだ

と思つたらいいやん

ということで見解が一致し

従来通り2週間お供え

しておくことになりました。

と

てどんど焼き当日

お楽しみのお餅は

いくつ残っていたかという

なんとたった2個。

しかも暖冬だったせい

一部カビが生えていました。

今年はお供えのあきらめようかと思つた瞬間おばあちゃんの「そんなもん、だんないだんない、

だんないでー」

の一言でカビの部分ナイフで

切り取って食べることに決定。

「だんない」というのは

福知山弁で「大丈夫」という意味

なんです

とくにじいちゃんばあちゃんの

口から聞くと

本当に大丈夫なように聞こえるの

で不思議です。

というわけで

今年はお供えの部分を削って小さく

なった2個の鏡餅を熾火で炙り

集落のみんなまで小さくちぎって

美味しく分けて食べました。

12個全体で言う人間だけでなく

そこで暮らす野生動物

そして微生物の皆さんと

仲良く分け合ったことになるので

神様も大層お喜びになって

一年間無病息災というご褒美を

いただけるのではと思います。

熾火が燃え尽き

最後に残った灰は分け合つて

それぞれ持ち帰り

家の周りに

「ながもん（蛇やムカデなど）が

はいらんように」といつて

撒いておくそうです。

今年も一年
平和でありますように。